

別冊 1

令和 4 年度使用

中学校用教科用図書の 選定に必要な資料

島根県教育委員会

各発行者記号は、次のとおりである。

A	東京書籍	L	新興出版社啓林館
B	大日本図書	M	山川出版社
C	教育図書	N	数研出版
D	開隆堂出版	O	日本文教出版
E	学校図書	P	学研教育みらい
F	三省堂	Q	自由社
G	教育出版	R	育鵬社
H	教育芸術社	S	学び舎
I	光村図書出版	T	廣済堂あかつき
J	帝国書院	U	日本教科書
K	大修館書店		

「選定に必要な資料」の観点は以下のとおりである。

観 点		説 明
1	内容、程度、分量等	記述された内容、程度が、生徒の発達の段階に適合しているか。また、分量が適切であるか。
2	題材の選択や構成等	取り上げられた題材の選択や構成は、学習を効果的に進めるために適切なものになっているか。
3	興味・関心への配慮等	生徒が興味・関心をもって学習できるように工夫されているか。
4	教科の特性、県の実態や課題への適合等	各教科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。
5	各教科及び実生活との関連についての工夫	各教科における資質・能力との関連や実生活へ生かせる工夫が盛り込まれているか。
6	その他	観点1～5にあてはまらない内容やその他特筆すべき事項
総括		観点1～5及びその他についての記述や感性を育む要素などを総合したその教科用図書の全体的な特徴等

選 定 に 必 要 な 資 料

社会 (歴史的分野) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○見開き2ページの本文を囲むようにして写真や資料が掲載され、約半分を占めている。本文の文章は行間が広く読みやすいように配慮されている。</p> <p>○写真や図表などの資料がバランスよく配置され、「スキル・アップ」のコーナーでは、情報を集めたり、読み取ったり、まとめたりする技能が身に付けられるように構成されている。(p. 37)</p>	<p>○各章の導入では、小学校での学習内容が年表中に示され、章のまとめで本章での学習内容を加えて年表が完成するように構成されている。(p. 18, 58)</p> <p>○小学校での学習を振り返る活動を通して、各章や各節、各授業での学習課題を示し、段階を踏みながら単元をまとめることができるよう工夫されている。(p. 19, 59)</p>	<p>○特集ページ「資料から発見」では、絵巻物や屏風絵といった絵画資料から、興味・関心をもってその時代の特徴を読み取れるよう工夫されている。(p. 52, 53)</p> <p>○コラム「もっと歴史」では、琉球文化やアイヌ文化について詳しく紹介され、興味・関心を持って文化の多様性を理解できるよう工夫されている。(p. 90, 91, 140, 141)</p>	<p>○コラム「もっと歴史」では「島根県と神話」を取り上げ、出雲大社とともに出雲神話や佐陀神能について詳しく記述されている。(p. 54)</p> <p>○竹島について「領土をめぐる問題の背景」では、写真や当時の地図を用いて、島根県への編入の経緯が詳しく記述されている。また、韓国による不法占拠や我が国の対応についても記述されている。(p. 178, 180, 259)</p>	<p>○他教科の学習と特に関わりの強い内容には「教科関連マーク」を付し、教科等横断的な視点から学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 15)</p> <p>○「歴史にアクセス」や「もっと歴史」のコラムでは、伝統・平和・防災・人権などのマークが示され、社会との関連を意識できるよう工夫されている。(p. 87, 242, 274)</p>	<p>○二次元コードから各時代ごとにまとめられたサイトにアクセスできるようになっている。</p> <p>○特集コーナー「みんなでチャレンジ」では、対話的な活動によって多面的・多角的に考えられるように構成されている。(p. 191)</p>	<p>○章末の「まとめの活動」では、本章の学習内容をくらげチャートやXチャートといった思考ツールを活用して各自でまとめ、時代を大観できるよう工夫されている。(p. 60, 61)</p> <p>○各分野や各教科との連携を意識させる構成となっており、人権問題や平和問題など現在につながる歴史的事象について様々な視点からとらえられるよう工夫されている。</p>
G	<p>○文字の行間に余裕をもたせ読みやすいように工夫され、写真や図表など資料の間隔を開いて余白をもたせ、見やすい構図になるよう工夫されている。</p> <p>○章末の見開き2ページには、時代のつながりや変化を意識できるように、絵画資料とともに学習課題が設けられるなどの工夫がされている。(p. 94, 95)</p>	<p>○各節の導入では、学習課題を示して見通しを持たせ、節のまとめではその課題に対して重要と考えるできごとや言葉を各自が選択し、その理由を説明する活動を取り入れている。(p. 87)</p> <p>○学習のまとめで用いる年表は、見開き2ページで示され、見やすさに配慮され、各自で記入も可能である。(p. 56, 57)</p>	<p>○すごろくにチャレンジやカード作りなど、興味・関心を持って小学校での学習を振り返れるよう工夫されている。(p. 2-6)</p> <p>○タイトルの上の部分に時代スケールが設けられ、学習する時代が色で示されている。また、タイトルはその時代の特徴を表す言葉が用いられ、興味・関心を引くものとなっている。</p>	<p>○「銀で結びつく世界」というテーマで石見銀山について取り上げ、貿易において石見銀山の銀がどのような役割を果たしていたのかが説明されている。(p. 106)</p> <p>○竹島について「形づくられる日本」の本文で島根県への編入が記述され、「隣国と向き合うために」というコラムの中で編入の経緯や韓国の不法占拠、日本政府の対応について記述されている。(p. 176, 268)</p>	<p>○「歴史を探ろう」という特集ページでは、14のテーマでリサイクルや政治参加などの視点から当時の様子と現在の暮らしとのつながりを考えられるように構成されている。(p. 140, 141)</p> <p>○「身近な地域の歴史を調べよう」では、図書の分類や意見の共有とまとめ方など、情報を集めたり、まとめたりする活動について詳しく説明されている。(p. 10-16)</p>	<p>○二次元コードから様々なデータベースにアクセスでき、資料や動画などを閲覧できるようになっている。</p> <p>○巻末の「世界地図の歴史」では、歴史上で世界の形がどのように考えられてきたのかについて、興味・関心を引く資料が掲載されている。</p>	<p>○「歴史を探ろう」や「歴史の窓」など学習内容を深めるページを多く取り入れ、多面的・多角的な視点で歴史的事象がとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○章末の「時代の変化に注目しよう」では、その時代の特徴を確認するとともに、次の時代での変化について予想する活動を取り入れている。(p. 94, 95)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○各時代の想像図や世界地図が見開き2ページにわたって大きく掲載されており、学習で活用しやすい工夫されている。(p. 80, 81)</p> <p>○各章に配置されているコラム「歴史を探ろう」や特集ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、学習内容を深めたり、違う視点から捉えたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○章や節の導入では、学習課題を示して見通しをもたせ、段階的に課題を解決できるようにし、歴史的な見方・考え方を働かせてまとめる構成になっている。</p> <p>○「タイムトラベル」という時代の想像図が章や節の導入に掲載され、時代のイメージをふくらませるとともに、前の時代と比較をしたり、疑問点を発見したりできるよう工夫されている。(p. 80, 81)</p>	<p>○特集ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、「赤穂事件を考察する」など、興味・関心を引く課題を示し、多面的・多角的な視点から自分の意見をまとめられるように構成されている。(p. 144, 145)</p> <p>○世界地図上に想像図や各地域とのつながりを示すことで、興味・関心を持って世界の動きがとらえられるよう工夫されている。(p. 42, 43)</p>	<p>○古代の学習では、「荒神谷遺跡の銅剣」や出雲地方を中心に点在する「四隅突出型墳丘墓」が取り上げられ、国や権力の誕生について記述されている。(p. 27, 32)</p> <p>○竹島について「新たな外交と国境の画定」の本文に島根県への編入が記述されている。また、コラム「日本の領土画定と近隣諸国」で、編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記述されている。(p. 179, 267)</p>	<p>○コラム「未来に向けて」では、持続可能な開発目標に関連する内容として、環境や人権といった項目で、未来の社会のために参考となる先人たちの取組が紹介されている。(p. 153)</p> <p>○巻末の「多面的・多角的に構想する」では、歴史の学習を振り返り、現在と未来の日本や世界のあり方について、友達との対話を通して考えられるように構成されている。(p. 286, 287)</p>	<p>○二次元コードからコンテンツごとにまとめられたサイトにアクセスできるようにしている。</p> <p>○ページ右側の年表で学習する時代が確認できるとともに、巻頭や巻末の年表と対応しているため、時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○「章の学習を振り返ろう」では、年表や図表を使って課題に対する自分の考えをまとめ、友達との対話を通じて各時代を大観できるように構成されている。(p. 92, 93)</p> <p>○時代の想像図である「タイムトラベル」では、生徒の興味・関心を喚起させるとともに、本文の説明で想像図の位置を示す記号を付し、説明内容と想像図で関連がつかめるよう工夫されている。(p. 80-83)</p>
M	<p>○見開き2ページの写真・図表などの資料数が豊富である。本文での記述内容も多く、歴史的な事象が丁寧に説明されている。</p> <p>○日本史と世界史の年表が各種資料とともに並記され、世界地図も各章や巻末に掲載されるなど、世界の動きと関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 102, 103)</p>	<p>○各授業では、1~2個の学習課題を示して見通しをもたせ、終末の「ステップアップ」では、さらに学習内容を深められるように課題が提示されている。(p. 112, 113)</p> <p>○特集ページ「歴史を考えよう」では、様々な資料を読み取ることで、学習内容についてさらに考えを深めることができるよう工夫されている。(p. 76, 77)</p>	<p>○コラム「地域からのアプローチ」では、特定の地域を取り上げ、その時代と関連のある史跡や特産品について、地域的な特徴を踏まえて紹介されている。(p. 58, 59)</p> <p>○世界地図を用いて世界の様子や遺跡などがイラストで示されている。世界全体がどのような発展を遂げているか興味・関心を持って読み取れるよう工夫されている。(p. 110, 111)</p>	<p>○「ヨーロッパ人との出会い」では、石見银山について、銀山が示された当時の地図や銀の写真が掲載され、当時の海外における銀の需要について説明されている。(p. 113)</p> <p>○コラム「歴史へのアプローチ」では、竹島の島根県への編入と韓国による不法占拠について記述されている。(p. 266, 267)</p>	<p>○主権者の育成という観点から、特集ページ「歴史を考えよう」の中で、普通選挙や日本国憲法について考えられるように構成されている。(p. 228, 229, 260, 261)</p> <p>○コラム「歴史へのアプローチ」では、琉球文化とアイヌ文化が詳しく紹介され、日本における文化の多様性について考えられるように構成されている。(p. 88-91)</p>	<p>○二次元コードから様々なサイトにアクセスでき、デジタル資料や動画、写真などを見ることが出来る。</p> <p>○「身近な地域を調べよう」では、調査スキルのポイントが項目ごとにまとめられており、他教科の学習にも活用できるように説明されている。(p. 8-13)</p>	<p>○各章の導入で日本史と世界史の年表を並記したり、各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介したりして、世界の動きとの関連を意識できるように構成されている。</p> <p>○章末のまとめでは、地図や図表を活用し、視点を明確にしてまとめ、直接記入ができるよう工夫されている。(p. 152, 153)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
○	<p>○時代ごとの様子がうかがえる資料が多数使用されている。特に文化財に関する資料は多く、複数ページにわたって掲載されている。(p. 98-101)</p> <p>○「先人に学ぶ」や「女性史コラム」など、先人の取組を学ぶことで、これからの生き方について考えることができるコーナーを多数設けている。(p. 154, 155)</p>	<p>○各編の導入には、複数の資料が提示され、前の時代と比較するなどして学習課題を見出せるよう工夫されている。また、各編のめあてが示され、見通しをもって学習に取り組めるように構成されている。(p. 64, 65)</p> <p>○「チャレンジ歴史」など、歴史的事象の考察や対話的な活動を通じて学習を深める特設ページが多く取り入れられている。(p. 216, 217)</p>	<p>○特設ページ「歴史との対話を未来に活かす」では、学習を振り返り未来に向けて考える活動が設けられ、災害・政治参加・世界平和などに興味・関心をもつことができるよう工夫されている。(p. 298-305)</p> <p>○各編の導入の「地図で見る世界の動き」では、世界地図や写真とともに、国の位置や地域とのつながりが示され、興味・関心を高められるように構成されている。(p. 66, 67)</p>	<p>○コラム「地域に学ぶ」では、石見銀山についてヨーロッパの国々に認められ、戦国時代に要所として争われたことが記述されている。(p. 121)</p> <p>○「領土の画定と隣接地域」の本文、年表、地図で竹島の島根県編入について触れられ、特設ページ「冷戦終結後の近隣諸国との関係」で歴史的経緯と現在の状況について記述されている。(p. 192, 193, 292, 293)</p>	<p>○コラム「先人に学ぶ」では、人権保障や世界平和、文化の発展などに取り組んだ先人を紹介し、道徳科などとの関連を図ることができるよう工夫されている。(p. 215)</p> <p>○巻頭ページには、過去と現代の町並みや人々の様子などの資料が掲載されており、学習内容と現代の衣食住に関わる生活とのつながりが分かるように構成されている。</p>	<p>○二次元コードからデジタル資料のあるサイトにアクセスでき、学習内容を深めることができるようになっている。</p> <p>○巻末には「歴史学習の基礎資料」として、絵画資料の見方や土地制度の移り変わり、文化財の種類などについて詳しく紹介されている。</p>	<p>○文化財資料や考古学資料が多数掲載され、資料を比較したり背景を考えたりする活動を通して、多面的・多角的な視点で歴史的な事象がとらえられるよう工夫されている。</p> <p>○学習するうえでの手立てとなる「歴史的な見方・考え方」について詳しく説明され、各授業で扱う「見方・考え方」について示されている。(p. 12, 13, 18)</p>
○	<p>○図表や年表が数多く掲載され、ポイントをしばってわかりやすくまとめられており、見やすく理解が深められるよう工夫されている。(p. 136, 190)</p> <p>○章末の「復習問題のページ」では、学習内容を確認できる問題が数多く掲載され、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができるよう構成されている。(p. 66)</p>	<p>○各章の導入では「登場人物紹介コーナー」が設けてあり、小学校の学習内容を振り返ることができるよう工夫されている。(p. 69)</p> <p>○各章の最後のページでは「まとめ図」が掲載され、時代の流れを意識して学習内容がまとめられている。そして、次ページの「登場人物紹介コーナー」と関連をもたせ、各時代のつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 148, 149)</p>	<p>○特集ページや本文横の特集コーナーの「外から見た日本」では、外国が日本をどのように見ていたかが紹介され、興味・関心を高めて学習できるよう工夫されている。(p. 159, 196)</p> <p>○コラム「もっと知りたい」や「人物クローズアップ」など、興味・関心を高めることができる話題が数多く掲載されている。(p. 76, 77, 204, 205)</p>	<p>○コラム「もっと知りたい」では、「国譲り神話と古代人」と題し、神話について詳しく記述され、その中で出雲大社と加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸について紹介されている。(p. 40, 41)</p> <p>○竹島について「独立の回復と領土問題」の本文で、李承晩ラインの設定など、韓国による不法占拠の経緯が記述されている。(p. 263)</p>	<p>○各章に「調べ学習のページ」が設けられ、修学旅行と関連付けたり、日本人の名字の由来について調べたりできるように構成されている。(p. 64, 65, 100, 101)</p> <p>○「歴史を学ぶとは」や「歴史を学んで」では、日本を「森の国」「水田の国」「町工場」の視点から捉え、地域や生活との関連を意識しながら歴史学習ができるよう工夫されている。(p. 2, 3, 289)</p>	<p>○巻末ページでは「世界各国・王朝の興亡一覧」や「元号→西暦早見表」が掲載され、世界の王朝の変遷や元号と西暦の関係がわかりやすく掲載されている。</p> <p>○「歴史を学んで」では、歴史的な分野のまとめとして、日本の歴史の特色について考えることができる課題が設定されている。(p. 289)</p>	<p>○章末では比較させる課題が設けられたり、特集ページとして「外から見た日本」が紹介されたりするなど、多面的・多角的な視点を意識した資料や課題が数多く設けられている。(p. 103, 116)</p> <p>○章末と章始めのページが年表形式でつながっていて、章と章の学習内容の接続を意識した構成がなされている。(p. 148, 149)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
R	<p>○多くの人物が取り上げられ、写真とともに詳しく紹介されている。様々な立場から歴史的事象を考えられるように配慮されている。(p. 208, 209)</p> <p>○古代の宗教観や神話など、日本の成り立ちについて詳しく紹介されており、古来の見方・考え方について触れることができる。(p. 44, 56, 57)</p>	<p>○各章の導入の「○○の世界へようこそ!」では、見開き2ページの絵画資料に着目して、その時代の特徴や他の時代との違いをとらえ、学習課題を見出せるよう工夫されている。(p. 72, 73)</p> <p>○特集ページ「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表する大きなできごとについて詳しく掘り下げて考え、友達との意見交換を通じて理解を深められるよう工夫されている。(p. 150)</p>	<p>○特集ページ「私の博物館をデザインしてみよう」では、自分が学芸員になり展示方法を考えることで、興味・関心を持って各時代の特徴がとらえられるよう工夫されている。(p. 151)</p> <p>○各章の導入では「鳥の目」でイラストを、「虫の目」で絵画資料を見て時代を概観し、興味・関心を高めて見方・考え方を働かせるよう工夫されている。(p. 70-73)</p>	<p>○コラム「神話に見るわが国誕生の物語」では、日本の神話について詳しく記述され、そとで出雲大社や島根県の神代神楽が紹介されている。(p. 56, 57)</p> <p>○竹島について「明治初期の外交と国境の画定」の本文に島根県への編入が記述されている。コラム「わが国の領土をめぐる問題の歴史」の中で編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記述されている。(p. 183, 267)</p>	<p>○「震災の日本史」が特設ページで設けられ、記憶と教訓から未来をどう生きるかについて考えることができるよう工夫されている。(p. 284, 285)</p> <p>○江戸時代の生活について書かれたコラムの中で、再生・活用の中での恵や環境に配慮した生活について記述され、現代社会の課題を意識して今後の取組を考えられるように構成されている。(p. 133)</p>	<p>○各章の導入では「歴史ものさし」を使って学習する時代の範囲を確認でき、その時代の船から当時の様子や日本の発展をとらえることができるよう工夫されている。(p. 69)</p> <p>○章末には年表や地図を使った学習のまとめがあり、教科書の最後には歴史学習のまとめができるよう工夫されている。(p. 292, 293)</p>	<p>○人物について「なでしこ日本史」や「人物クローズアップ」で多く取り上げられ、その時代の背景や人々の思いについて知り、様々な視点から歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 214)</p> <p>○特集ページ「このころの世界は」では、当時の世界の様子について詳しく述べられ、世界の動きと関連付けて学習できるように構成されている。(p. 84, 85)</p>
S	<p>○A 4版で写真や図表が大きくて見やすく、実物大の写真資料も掲載されている。また余白が多く、読みやすさに配慮されている。(p. 87)</p> <p>○写真や絵画の資料が数多く掲載され、資料の読み取りとともに、まとめの学習で絵画資料を解説する活動を取り入れている。(p. 85)</p>	<p>○各章の扉のページでは、テーマによって当時の世界の様子がまとめられ、章の学習課題が示されている。(p. 86, 87)</p> <p>○各章のまとめでは、歴史上の人物になってインタビューに答えたり、漫画で時代を表したりするなどの表現活動を通して学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 135, 245)</p>	<p>○特集ページ「歴史を体験する」では、火おこしや糸紡ぎなどの体験活動や資料をもとにした対話的な活動が紹介され、興味・関心を喚起して学習を深められるよう工夫されている。(p. 34, 35)</p> <p>○各タイトルページの終末には、興味・関心を高め、学習内容をさらに深めることができるコラムが掲載されている。(p. 47)</p>	<p>○「銀と戦国大名」では、石見銀山の開発と交易、戦国大名の利権争いについて扱われている。また、4章の導入では、世界の様子とともに実物大の石見銀が掲載されている。(p. 82, 87)</p> <p>○竹島について「戦場は中国だった - 日露戦争」の側注で、日本政府が島根県への編入を閣議で決定したことが記述されている。(p. 189)</p>	<p>○「フォーカス」というコーナーが多く設けられ、歴史的背景に着目することで、人権や教育、世界平和などについて考えることができるように構成されている。(p. 270)</p> <p>○現代史のまとめでは、自分の家族の歴史を調べる活動が紹介され、自分や歴史とのつながりを考えられるよう工夫されている。(p. 278, 279)</p>	<p>○縦型の年表が複数ページにわたって掲載され、写真や図表とともに学習の振り返りができるように構成されている。(p. 282-293)</p> <p>○巻頭に世界地図が掲載され、主な史跡や関係都市の位置を確認できるように構成されている。</p>	<p>○写真資料や絵画資料が数多く掲載され、興味・関心を高めるとともに、資料の読み取りについての技能が身に付けられるように構成されている。</p> <p>○各章の扉のページでは、テーマに沿った世界の様子がわかる写真や絵画が掲載され、各地域を比較することで時代の特徴がとらえられるよう工夫されている。(p. 86, 87)</p>